

1 我が国の農産物輸入等の動向

(1) 概観

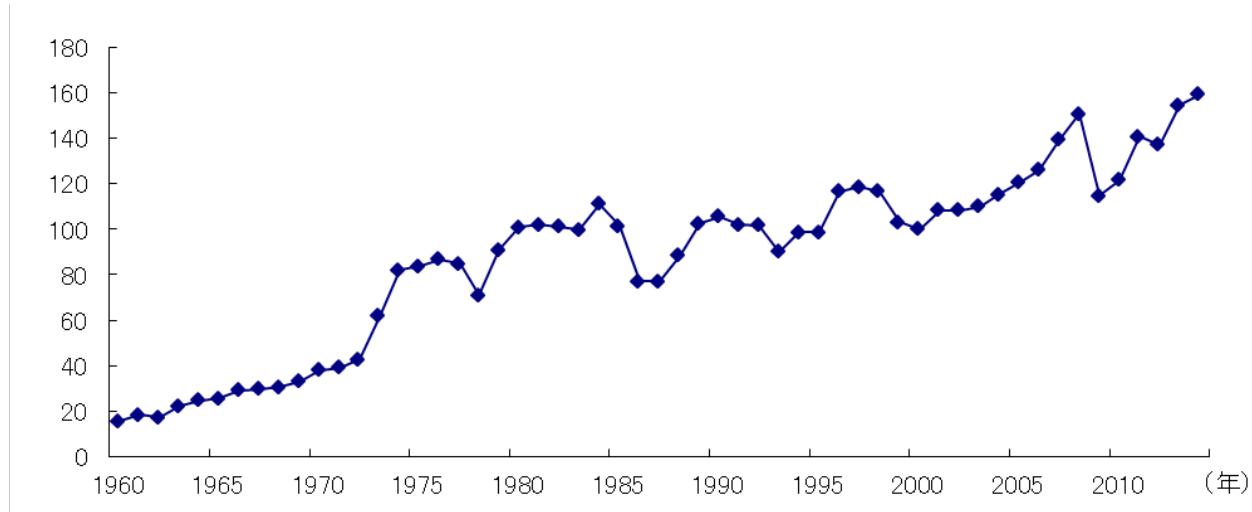
(海外依存を高めた我が国の食料供給)

我が国の農産物輸入は、1960～2014年の間、金額ベースで10.2倍と大幅に増加している。

多様な食生活が実現される中、需要が拡大した畜産物や油脂類の生産に必要な飼料穀物や大豆等の油糧種子のほとんどは国土条件等の制約から輸入に依存せざるを得ない状況にある。また、近年では、食の外部化・サービス化などの食料消費構造の変化や経済のグローバル化といった社会経済情勢の変化の中で、我が国の農業生産が消費者や実需者のニーズに出荷量や価格等の面で必ずしも十分に対応できておらず、このことから、結果として実需者が原材料を海外から調達している面もある。

(図 III-1)

図 III-1 我が国の農産物の輸入金額の推移 (2000年=100)



資料：財務省「貿易統計」

(我が国食料輸入の質的変化)

消費者ニーズの多様化・高度化、国土条件の制約等を背景に、我が国の食料輸入は、大きく拡大するとともに、輸入される品目も大きく変化している。

1960年当時には国民の主要食料を確保する必要性から、直接食用として消費する小麦の輸入額が最も多かった。

その後、国民所得の増大に伴い食生活の多様化・高度化が進展し、畜産物や油脂類の国内需要が拡大したこと等から、1980年代には、家畜の飼料のとうもろこしや、植物性油脂原料の大豆の輸入が拡大した。1990年以降は、食肉の需要が国内生産を上回って増加したことから、牛肉、豚肉等畜産物の輸入額が上位を占めている。近年は、生鮮・乾燥果実が消費の周年化や業務用・加工用需要の増大等により、輸入額の上位を占め、鶏肉調製品や冷凍野菜についても輸入額の増加がみられる。(表 III-1)

表 III-1 我が国の輸入農産物の上位10品目の推移（金額ベース）

	1960年	1970	1980	1990	2000	2014
1位	小麦	とうもろこし	とうもろこし	とうもろこし	豚肉	豚肉
2位	大豆	大豆	大豆	牛 肉	たばこ	とうもろこし
3位	粗 糖	小 麦	小 麦	アルコール飲料	牛 肉	たばこ
4位	とうもろこし	粗 糖	粗 糖	豚 肉	生鮮・乾燥果実	牛 肉
5位	牛 脂	グレーンソルガム	コーヒー豆	たばこ	とうもろこし	生鮮・乾燥果実
6位	米	バナナ	グレーンソルガム	大 豆	アルコール飲料	アルコール飲料
7位	コ プ ラ	たばこ	牛 肉	小 麦	大 豆	小 麦
8位	たばこ	コーヒー豆	豚 肉	菜 種	小 麦	鶏肉調製品
9位	乾燥ミルク（脱脂）	牛 脂	たばこ	鶏 肉	生鮮野菜	大 豆
10位	ふすま	羊 肉	アルコール飲料	コーヒー豆	鶏 肉	冷凍野菜

資料：財務省「貿易統計」

- 注：1) 工業用原料（羊毛、綿、天然ゴム、その他（牛皮等））を除く。
 2) たばこは、製品たばこを含む。
 3) 1990年以前は、生鮮・乾燥果実の分類を採用していない。

(2) 輸入動向と輸出動向

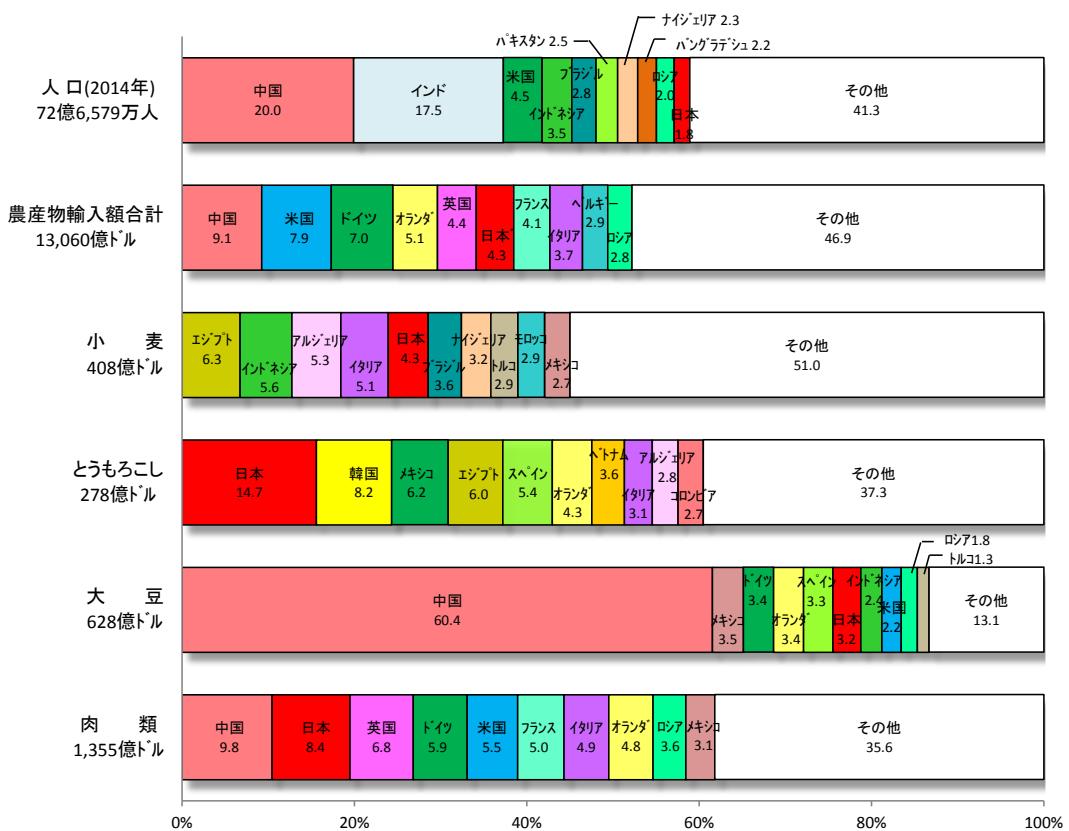
(我が国は世界第2位の農産物純輸入国)

様々な要因を背景に農産物の輸入額は増大しているが、世界の農産物輸入に占める我が国のシェアは近年減少に転じている。世界の人口に占める我が国のシェアは2014年で1.8%であるが、世界の農産物輸入に占めるシェア（金額ベース）は4.3%を占め、世界第6位となっている。代表的な品目でみると、とうもろこしは14.7%で世界第1位であるが、肉類は中国が世界第1位となったことから第2位（8.4%）に後退し、小麦は前年の第3位（5.3%）から第5位（4.3%）に後退している。（図 III-2）

米国農務省（USDA）の資料を用いて、国別の農産物の輸出入バランスをみると、我が国の農産物純輸入額（輸入額－輸出額）は拡大傾向で推移し、農産物輸入額では第7位であるが、農産物純輸入額では中国に次いで世界第2位となっている。米国やEU諸国などでは輸入額とともに輸出額も多く、圧倒的に輸入に偏っている我が国の輸出入バランスは、他の国とは異なる構造となっている。（図III-3）

なお、近年では、世界的な日本食ブームやアジア諸国の経済発展による高所得者層の増加等により、高品質で安全・安心な我が国の農林水産物・食品の輸出拡大の可能性が増大していることから、民と官が一体となった輸出促進への取組が進められている。

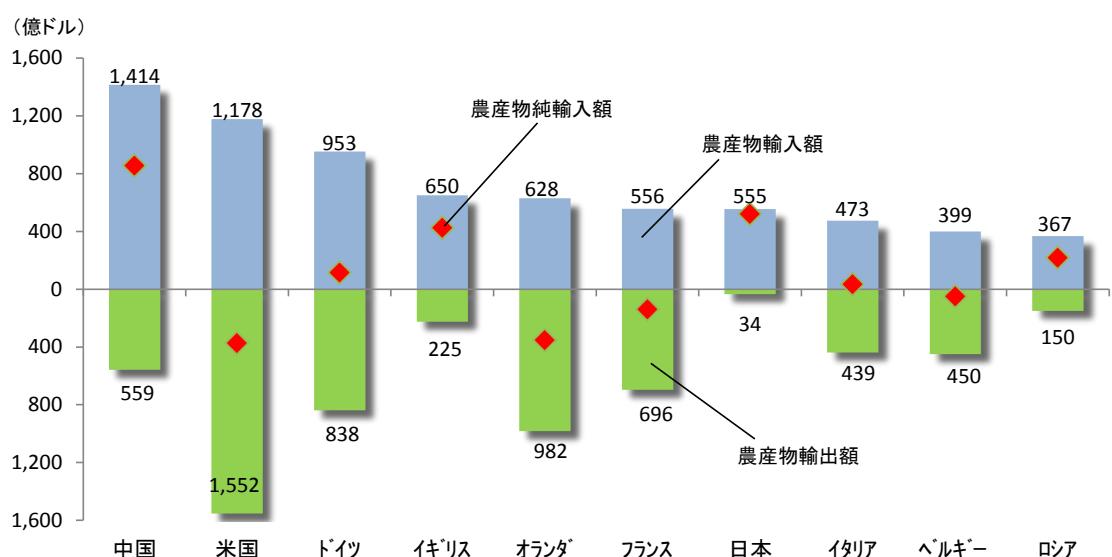
図 III-2 世界人口及び世界農産物輸入額割合（2014年）



資料：人口はFAO「FAOSTAT」、輸入額はUSDA「Global Agricultural Trade System」

注：中国には、台湾、香港、マカオを含む。

図 III-3 農産物輸入額上位10カ国の農産物輸入額・輸出額・純輸入額（2014年）



資料：USDA「Global Agricultural Trade System」

注：1) 農産物純輸入額=農産物輸入額(CIFベース) - 農産物輸出額(FOBベース)

2) 中国には、台湾、香港、マカオを含む。

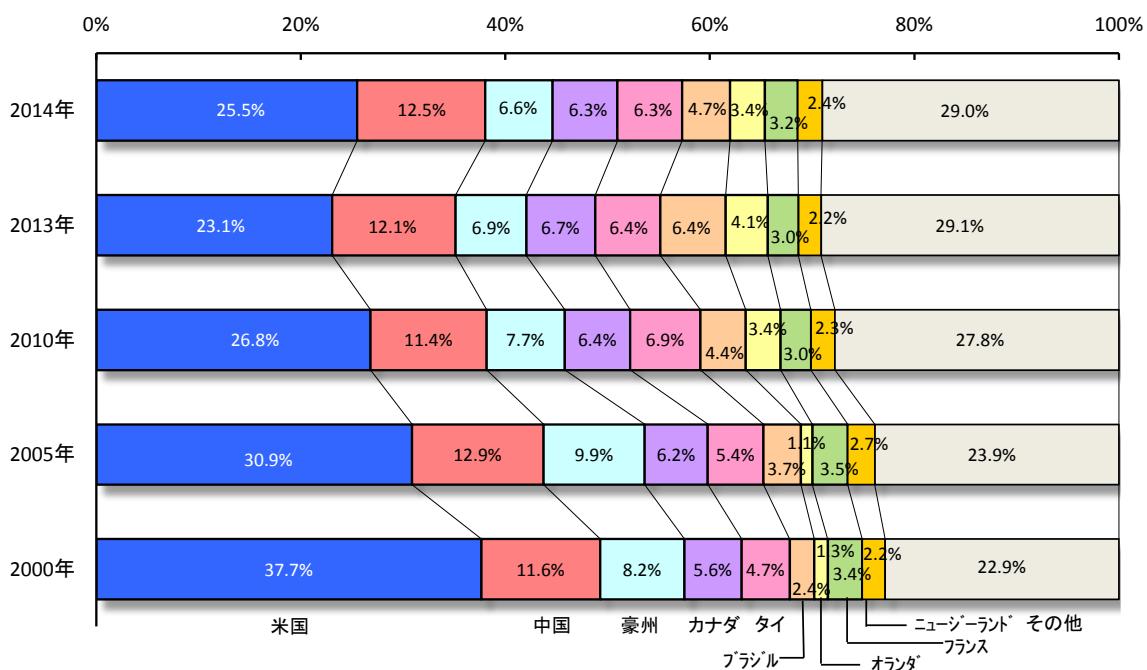
(米国など特定国への依存度が高い我が国の農産物輸入)

国土条件に制約のある我が国では、消費者ニーズの高度化・多様化等を背景に農産物輸入が大きく増加してきた。2014年の我が国の農産物輸入先国を見ると、第1位は米国で25.5%、次に、中国12.5%、豪州6.6%、カナダ6.3%、タイ6.3%、ブラジル4.7%となっており、この上位6か国で農産物輸入額の6割以上を占めている。

2000年からの我が国の農産物輸入先国の変化をみると、減少を続けていた米国や伸び悩んでいた中国がシェアを拡大する一方で、カナダ、ブラジル、オランダ等がシェアを縮小させている。

(図 III-4)

図 III-4 我が国の輸入先国別農産物輸入額割合の推移



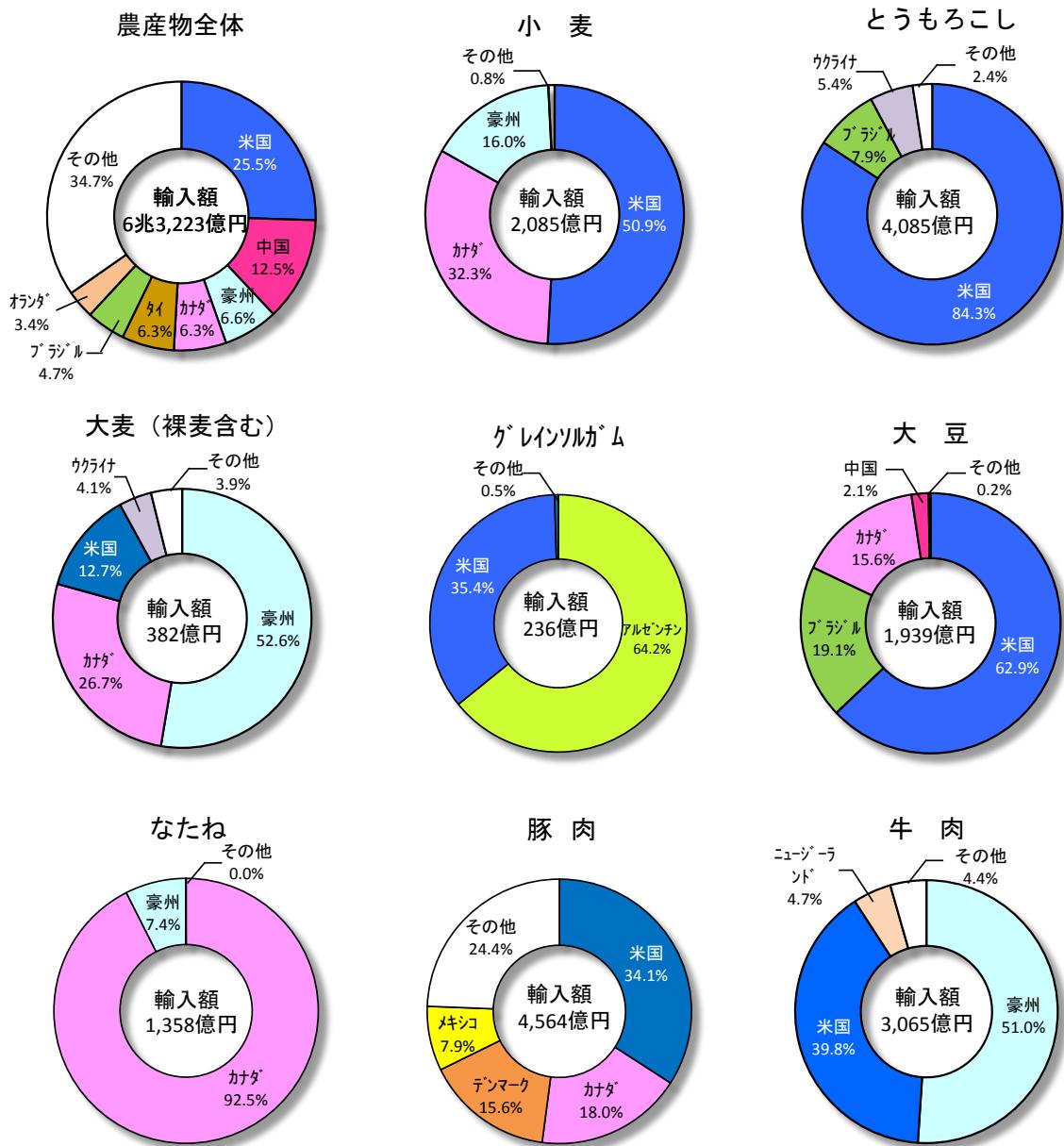
資料：財務省「貿易統計」

我が国は供給の多くを海外からの輸入に依存しているが、主要農産物別に輸入先国をみると、とうもろこしや大豆等輸入金額の多い農産物は特定国への依存傾向が顕著であり、上位3か国で約9割以上を占めている。近年低下していた米国のシェアは2014年には増加した品目が多く、小麦50.9%、とうもろこし84.3%、大豆62.9%と高いシェアを占めている。(図 III-5)

このように、我が国の農産物の輸入構造は、米国をはじめとした少数の特定の国・地域への依存度が高いという特徴を有し、特に、多くの国・地域で消費され、世界的に需要の増加が見込まれる飼料穀物や油糧種子ではその傾向が強くなっている。

このため、我が国の食料供給は国際需給の変動や輸入先国の輸出政策の影響を受けやすい状況となっているため、出来るだけ輸入先の多角化等を図り、リスク分散に努めることが重要である。(図 III-6)

図 III-5 我が国的主要農産物の国別輸入割合（2014年）

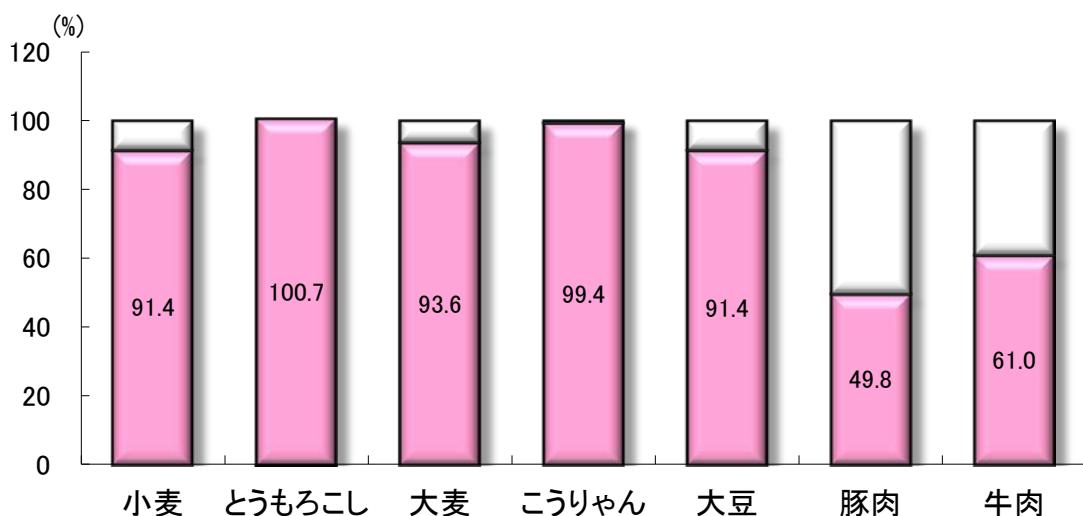


資料：財務省「貿易統計」

（我が国の農産物貿易収支は大幅な赤字となっている）

一般に、我が国の国土条件の制約等を背景とした経営規模の零細性等に起因するコスト高のため、我が国の農産物は国際市場における競争力が弱いこと等から、2014年は輸入額が6兆3,223億円であるのに対し、輸出額は3,569億円となっている。この結果、農産物の貿易収支は、恒常的に大幅な赤字となっており、その額は1960年の▲5,593億円から2014年には▲5兆9,654億円へと拡大している。（図 III-7）

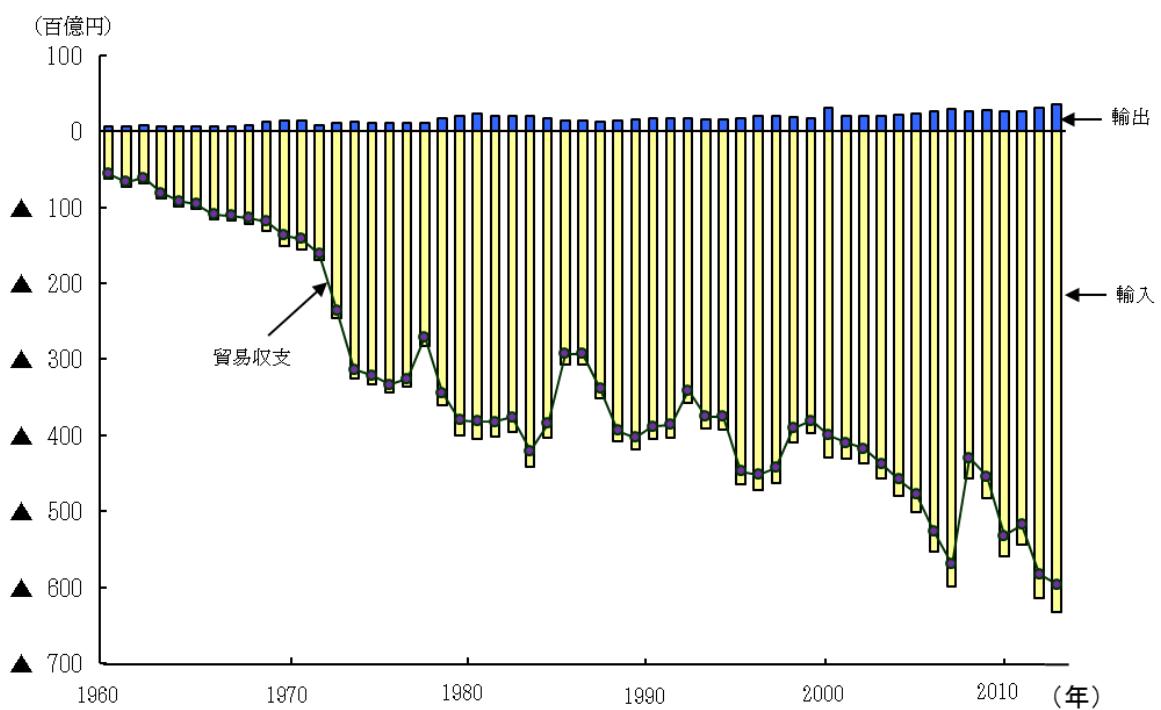
図 III-6 (参考) 主要品目別の我が国の供給量に占める輸入量の割合 (2014年度)



資料：農林水産省「食料需給表」

注：供給量は、国内生産量+輸入量-輸出量-在庫の増加量である。

図 III-7 我が国の農産物貿易動向 (1960年～2014年：円ベース)



資料 : 財務省「貿易統計」

注: 1) 金額は、輸出がFOB価格、輸入がCIF価格である。

2) 羊毛、アルコール飲料、たばこ、天然ゴム及び綿を含む。

3) 貿易収支=輸出額-輸入額